

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立水梨小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒988-0169  
宮城県気仙沼市物倉山6  
E-mail mizunashi-sho@kesenuma.ed.jp  
Website http://www.kesenuma.ed.jp/mizunashi-syou/?page\_id=18  
幼児児童生徒数 男子 8 名 女子 11 名 合計 19 名  
幼児・児童・生徒の年齢 8 歳～12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「環境教育」と「地域遺産教育」をテーマとして、地域の自然や伝統文化と関わり、地域社会をより良くする担い手の育成を図ることを目標に、ESD を学校教育の重要な教育の一つに捉え位置付けている。ESD の実践を通して、地域への愛着を深め地域の自然環境や伝統を守り、他者と協力しながら多面的総合的に考える力の育成を目標としている。具体的には、下記の 4 つの活動を柱に、学校行事、総合的な学習の時間を中心に創意工夫しながら取り組んでいる。

#### ①花壇や米作り等の栽培活動

米作りは、地域の基幹産業であり、米作りの体験活動を通して、地域の特色、勤労の大切さ、収穫の喜び、自然への感謝を学ぶ。また、花壇での花作りも本校の特色ある活動として、地域の方と共に花壇の手入れやお世話をしながら、緑化に対する意識を高める。秋には、感謝祭を開き、収穫したもち米で、もちを振る舞いながらお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える。

#### ②地域の自然や歴史に関わる学習

地域の風土に詳しい方を講師として、写真を交えてお話を聞いたり、その場所に見学に行ったりする。下学年は、主に地域の草花や樹木、木の実の観察、上学年は、地域の先人の努力により開かれた用水路や水田、神社や史跡について観察したり調べたりする。

### ③地域の伝統芸能に関わる学習

水梨地域に古くから伝わる羽田神楽について、地域の方から歴史や踊りを学び、地域に伝わる文化を受け継ぐ。神楽の練習は、5月の合同運動会に向けては、4～6年生が行い、10月の羽田神社の「お山がけ」では、5・6年、2月の神楽発表会では、2年生以上でそれぞれ数時間練習し、発表する。伝承芸能の体験により、地域に伝わる伝統文化の良さ、コミュニティの一員としての地域のつながりを考え、ふるさとを大切に続ける思いを育む。

### ④地域の伝統文化に関わる学習

地域に窯を構える講師の指導により、地域の土を使って、粘土を作り、テーマに基づいて考えたことや感じたことを作品に表現し、作った作品について、合評会で発表する。



①の写真（田植え）



②の写真（樹木や草花観察）



③の写真（神楽発表）



④の写真（テーマをもとに成形）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(委員会活動 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ウェブサイト (神楽の歴史や神楽についてのサイト)
---------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、教育計画の中に、ESD について「環境教育」、「地域遺産教育」のテーマそれぞれにおいて、「1目標」「2本年度の努力点」「3（学習・活動）内容」「4指導上の留意点」を明記し、組織的、計画的に取り組んでいる。その中で、努力点の一つに全教育活動の中で、指導を進めるものとするが、特に、生活科や理科、総合的な学習の時間など各教科等の指導内容を検討し、教科と関連させながら授業時数でできるだけ取り組むことができるように工夫する。」を掲げ、このことをもとに実践している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、ESD の視点で活動する学習のゲストティーチャーとの打ち合わせを年度初めに設定し、ゲストティーチャーとともに、活動計画を話し合っている。29年度は、「羽田神楽」「水梨を知ろう」「伝統工芸に挑戦」「米作り」の4つのテーマで4人の講師に、担当職員をそれぞれ複数割り当て、ねらい、日時、活動内容、準備物について打ち合わせを行った。年度初めに、年間計画を明確にすることで、それぞれの学習を見通しを持って進めることができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動毎に評価方法を工夫し取り組んでいる。3・4年生の学習では、「水梨を知ろう」において、レポート形式に学習を通して学んだことや地域への思いを書き出し、評価材料とした。5・6年生では、「焼き物で表現しよう」において、テーマをもとに作品に込めた思いを合評会で発表し、陶芸家の講師に一人一人寸評をいただいた。これらの取組について、7月と12月に自己評価してよりよい活動になるよう、見直しを図りながら実施している。また、神楽発表会では、学校評議員会を併せて設定し、学校関係者評価も行っている。成果としては、児童は地域への愛着を深め、地域への担い手としての意識を高めている様子がうかがえるが、課題としては、児童数減少の中で、各活動の内容に加えて質の向上を図ることが求められている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域への発信・交流として、地域の老人クラブの方々の協力を得ながら、共に活動し、交流を図っている。また、各学習でお世話になった方々を11月に行う「感謝祭」にお招きし、学習のまとめとして発表の場を設け、感謝の思いを伝えている。「神楽学習」では、5月の「運動会」、10月の「お山がけ」、2月の「神楽発表会」で地域の方を招いて神楽踊りを披露している。さらに、ホームページや学校便りにおいて活動の様子を発信している。成果として、具体的な反響は寄せられていないが、ホームページの閲覧数が増加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、地域の企業等23団体で構成されている「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」による特別授業で、「わかめの養殖」について学習した。わかめの養殖に関わっている方のお話から、養殖の仕事の大変さと誇りを持って取り組んでいることや未来のために海と山の関わりを大切にしたい自然環境を守ることが大切であることを学んだ。このことは、山間部に位置する本校において、市で推進している海洋教育と山間部の関わりについて考えるきっかけとなり、今後ESDの視点で本校の教育活動に取り入れていきたい活動となった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、県の指定を受け、ユネスコスクールの松岩小学校、松岩中学校、及び気仙沼西高校と連携し、志教育の実践について発表を行った。実践の一つに地域防災の視点で、地区の自治会とも協力しながら、地域合同で防災訓練も行った。地域の関係機関との連携を深め、地域コミュニティを構築するきっかけとなった。また、この実践により、地域への愛着を深め、地域の担い手として、志を強くすることにもつながった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

ESDの視点で活動した効果として、特に、「他者と協力する態度」、「つながりを尊重する態度」、「進んで参加する態度」における変容が上げられる。具体的には、神楽学習において、高学年が中心となって、休み時間に自主的に練習に取り組んでいることや、発表会で例年より多くの参観者があることなどがある。児童の感想、自己評価、関係者評価、保護者アンケート等からも、子どもの変容に関する記載が見られた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度の活動計画は以下の通りである。

- ①花壇や米作り当の栽培活動
  - 「花と語ろう」（対象：全学年）…学校花壇の植栽計画と管理
  - 「米作り」（対象：全学年）…田植え、稲刈り、脱穀の作業体験と調べ活動
- ②地域の自然や歴史に関わる学習
  - 「水梨を知ろう」（対象：全学年）
    - ・1・2年：水梨地域の春の草花や秋の樹木や木の実を観察
    - ・3・4年：水梨地域の樹木や木の実、野山の様子を観察  
地域にある用水路の観察とその歴史についての学習
    - ・5・6年：水梨地域の歴史・史跡についての調べ活動
- ③地域の伝統芸能に関わる学習
  - 「羽田神楽を学ぼう」（対象：3～6年）
    - ・歴史や踊りの意味調べ ・御幣束作り ・運動会での発表
    - ・羽田神社の「お山がけ」での発表 ・神楽発表会での発表
- ④地域の伝統文化に関わる学習
  - 「焼き物で表現しよう」（対象：5～6年）
    - ・焼き物作りについてのオリエンテーション（イメージ作り）
    - ・土作り（砕く、こねる。）
    - ・テーマから想像を広げ、成形
    - ・合評会で作品の発表（2学期末 学習参観日）